

科目名	都市生活と人間福祉	単位数	2	授業形態	講義	担当 教員	松木 洋人（生）他
英語表記	Urban Life and Well-being						

● 科目の主題

現代社会では、多くの人々が都市において生活を営んでいるが、社会の変化の中で様々な生活問題が顕在化し、これらに対応するための取り組みが実施されている。本講義では、人間福祉学の立場から、都市における生活上のニーズの特性、ニーズ充足のための人的・物的資源の現状、福祉に関する諸制度・施策の課題について理解を深めることを目標とする。

● 授業の到達目標

本科目は、受講者が今日の都市生活で起こる様々な生活問題を自分なりに発見し、解決することを目標としている。講義を通して学んだことを知識として習得するだけでなく、それを踏まえた上で、受講者が自分で様々な生活問題について考察することができることを到達目標と考えている。毎授業終了時に課すレポートは、受講者によってそうした授業目標が達成されているかを評定する目安と位置づけられる。

● 授業内容・授業計画

オムニバス形式で、各教員が授業を担当する（順不同）。初回は、オリエンテーションと講義。

- ・オリエンテーション：松木 洋人
- ・都市生活と家族問題（1回）：松木 洋人
- ・都市と学校生活（2回）：多田 美智子
- ・都市生活と子ども・家族①（2回）：大堀 彰子

- ・都市生活と子ども・家族②（2回）：小積 律子
- ・都市生活と権利擁護（1回）：鶴浦 直子
- ・都市生活と居住福祉（1回）：野村 恭代
- ・リスク社会と子どもの防犯（1回）：中井 孝章
- ・都市生活と青年期のこころ（1回）：後藤 佳代子
- ・都市生活の子育て・子育て（1回）：長濱 輝代
- ・都市生活と外国人（1回）：堀口 正
- ・都市生活と人間関係（1回）：大西 次郎

● 事前・事後学習の内容

各回の授業の終了時に、予習・復習課題を提示する予定である。

● 評価方法

毎回、講義の最後に課すレポートに対し、講義担当者がその都度評価を行い、その評価の総計によって成績を付ける（出席点も含む）。なお、1回のレポートは、10点満点とし、その合計得点を最終的に100点満点に調整し、評価とする。

● 受講生へのコメント

レポート作成・提出のため、結果的に授業時間が延長されることになるので十分留意すること。第1回目の授業から出席すること。

● 教材

各々の授業中に、担当者から指示する（※オムニバス方式の授業形態を採るため、授業全体の教材はない）。